

# 文字もじ MOJI の世界

## 36. シヤチハタフォント

坂井 満\*

### シヤチハタの歴史とフォント

当社は1925年に創業。その都度インキを補充しなくても連続して捺印できる「万年スタンプ台」から始まった。その後、1965年スタンプ台でインキを付けずにポンポン押せる「Xスタンパー」を発売。1968年代表的な製品となる「シヤチハタネーム」を発売した。さらに、1995年にPCの電子データに捺印できる、「電子印鑑システム」の事業に着手し、現在もテレワークの推進で話題になる「パソコン決裁Cloud」を販売している。創業以来、時代の変化とともに、新たな製品やサービスを提供し続けてきた。

当社が取り扱う製品は、文字や版と関わりは深く、フォントなしでは成り立たない。スタンプ台のいらぬハンコのXスタンパーを製造する際、お客様が自分の好みの書体で、ネーム印や、アドレス印が作れるように、印判用に利用される数種の写植の書体を用意していた。「シヤチハタフォント」開発の起点になったのは、Xスタンパーの製造方法の変遷に起因する。

1980年代までは、写植原稿を元に型を起こし、塩入のゴムシートを加硫・加圧～脱塩の工程を経て、多孔質ゴムの印面材料を作製してきた。

1990年以降、生産効率向上のため、多孔質シートを直接レーザ加工機で印面を作製する方法に移行する。その際、印面データ作成のデジタル化が必要になった。

2000年代に入り、当初、市販の書体を採用してスタートしたが、将来の加工機の増加と、印面用途への最適なデザイン、多用途への展開の自由

度を求めて、自社フォントの開発に着手することになった。また、デジタル化には、(株)白舟書体の協力もあった。そして両社の協力関係は、今まで続いている。

2003年、標準的なデザイン9書体(太さのバリエーションを含めると17書体)の日本語フォントを開発し、現在のネーム印を中心としたビジネス用途のXスタンパーの印面組版に対応した。

自社フォントの特長は、捺印してインキが滲んでも、文字がつぶれにくいように、隙間と線の太

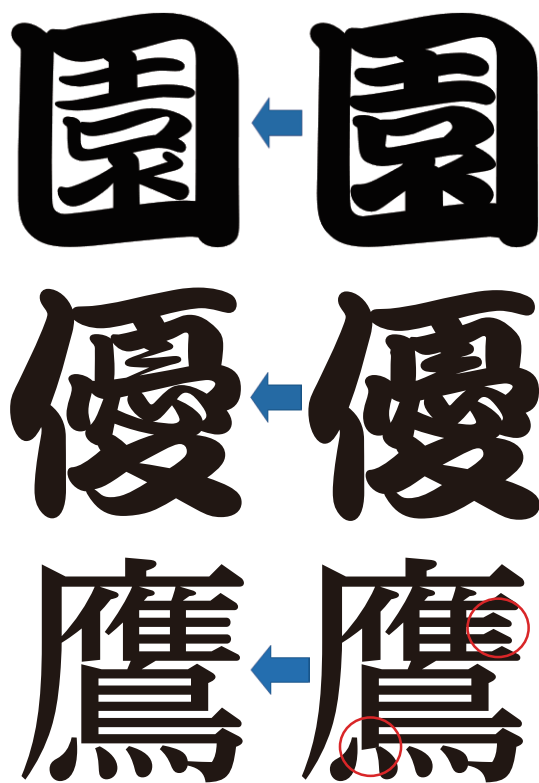


図1 シヤチハタフォントの例と特徴

版下データ				
にじみレベル1	○			△
↓				
にじみレベル2	△			×
↓				
にじみレベル3	×			×

図2 シヤチハタフォントのにじみテスト

さを調整した。特に氏名に使われる使用頻度の高い文字を重点的にいろいろな箇所を考慮している。その後も、独自のユニークな書体の開発や、グローバル展開に向け中国語フォントの開発も進めている。また、パソコン環境の変化や、JIS改定への対応など、開発と改良が繰り返され現在に至っている。

前述のように、「シヤチハタフォント」は、自社で製造するXスタンプーなどの浸透印で使用するフォントを確立することを目的として、開発と改良を重ねてきた。さらに「勘亭流」は、Xスタンプーへの利用と並行して、デザインをアレンジしてフォントベンダーにOEM供給している。

(図1)

鯨旗明朝体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗角ゴシック体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗丸ゴシック体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗学参丸ゴシック体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗勘亭流	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗篆書体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗隸書体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗古印体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗行書体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗楷書体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗+R甲骨体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ
鯨旗+R金文体	名古屋より愛をこめてシヤチハタ

図3 シヤチハタフォントの代表例

## シヤチハタフォントのデザインの工夫

シヤチハタネームなどは9.5mm丸の中に2～3文字を入れるため、筆文字はデザインの特徴を出しつつ、にじみで潰れないフォントとしてそれぞれ統一している。ひらがなカタカナ等も名前に使用されるので通常より大ぶりにサイズ調整、句読点、濁点半濁点も大きめに、捺印状態が悪くても少しでも視認性が良くなるように調整している。

突飛なデザインとしては2018年には、立命館大学白川静記念文字文化研究所の協力の下に制作した「甲骨」「金文」フォントである。学術的に解読されている文字は活かし当時にはない文字を現代に合わせて創造して作成したデザインである。

## 外字との戦い

シヤチハタネーム別注品は既製品にない名字や異体字のような文字をも作成する商品である。これにも「情報伝達」「ユーザー満足」の問題が重要になる。

現在の一般的な情報インフラでは表示できない名字の場合は「ハガキ、注文書（紙）」でしか注文できない。渡辺の「邊」「邊」以外の異体字等、

その全てをフォントとして用意できないので版下作成現場でも同じようなデザインで外字を作成し印面版下を作成する体制を取るほかないのが現状である。中には日本在住、外国人の土産として「中国語」等の注文明も、国内注文においては外字のような対応をせざるを得なかった。

これが、日本固有の外字と外国人の名字への対応という課題になって更なるテーマになった。

一つの答えが、中国語対応であり、既に一番需要の多い楷書体（楷体）の日本語と同デザインの簡体字、繁体字を完成した。その他の中国語書体も作成中である。（図4）

もう一つの技術的な対応がIVS<sup>1)</sup>であり、これはさらに使用する環境の問題も多いので研究段階であり、フォント作成の実現と製造現場投入は、まだ先になると思われる。やはり自社で使用する頻度の高いフォントから制作することになるであろう。

## 新しいニーズへ

シヤチハタフォントの外字の問題として中国人名が国内販売ルートで外字作成しかできないとい

旗牌宋体	语王武子当枕石漱流，	误曰漱石枕流。
旗牌仿宋体	语王武子当枕石漱流，	误曰漱石枕流。
旗牌楷体	语王武子当枕石漱流，	误曰漱石枕流。
旗牌黑体	语王武子当枕石漱流，	误曰漱石枕流。
旗牌少女体	语王武子当枕石漱流，	误曰漱石枕流。
旗牌爱心体	语王武子当枕石漱流，	误曰漱石枕流。
旗牌小萌体	语王武子当枕石漱流，	误曰漱石枕流。

図4 シヤチハタフォント中国語版の代表例

う問題があったが、自社の中国法人から、どこでも簡単にオリジナルスタンプが作れるスタンプ自販機「OSMO」(オスモ)に使用する中国語フォントが必要になったと要望があった。さらに中国国内で販売している子供向け「もちものスタンプ」(もちもの非吸収面に捺しても消えない)が好調なため、さらに子供受けの良い「カワイイ」フォント制作が必要となった。

今までは自社日本語フォントデザインから中国語化したものしかなかった。それが初めて中国語で「カワイイ」フォントを先に作る事となった。新型コロナウイルスの影響があるものの近々自社中国法人の販売網に乗ることとなる。その反響によっては日本語化も視野に入れつつ開発が続いて

いる。

現在ではシヤチハタフォントのほとんどが自社商品の使用のみなので、徐々にニーズに応じて一般の方々に提供したり、またスタンプの領域を越えて次のフェーズを目指して後世の世の中の役にも立つフォント作りをしていきたいと考える。■



1) IVS: Ideographic Variation Sequence (異体字シーケンス)の略。異体字の関係にある文字に「異体字セレクト」というコード(枝番号)を振ることで、より確実な文字情報の交換を可能にする技術のこと。たとえば、「ぎおん」という地名を表示する場合、「祇園」とするか、「祇園」とするか、フォントの例示字形に依存しており、環境によって表示される文字が異なることがあった(モリサワWebサイトより)

\* SAKAI, Mitsuru  
シヤチハタ株式会社  
新規事業部 特任部長  
〒451-0021 名古屋市中区天塚町4-69  
sakai@dev.shachihata.co.jp

## 印刷の基礎知識からトラブル解決法まで、 現場ですぐに役立つポケットサイズの入門書!

### 印刷技術基本ポイント

### 文字・書体 編

「印刷雑誌」編集部[編] 四六判・並製/64ページ 1,000円+税

文字と書体に焦点をあて、和文を中心に書籍や雑誌をはじめとした印刷媒体、さらにデジタル機器の表示まで、文字の基本を解説。

### 印刷技術基本ポイント

### 組版・ページネーション 編

「印刷雑誌」編集部[編] 四六判・並製/64ページ 1,200円+税

和文を中心に、文字の並べ方や行を組むルール、ページのデザインなどについて、基本から応用までを解説。

### 印刷技術基本ポイント

印刷・デザインに関わる基礎的な事項を豊富なカラー図表により初学者向けに解説。各分野の基礎的な項目をすばやく理解できる。



印刷学会出版部

<http://www.japanprinter.co.jp/>